多聞院伊澤家と久那斗神社

人々は古くから、巨大な岩石や奇異な形をした山の姿に素朴な畏敬の念を抱き特別なものとしてきました。こうした山々は、神々が存在し祖先の霊も集まる霊山とみなされ、人が容易に分け入ることができない場所でした。

修験道は、役行者（奈良時代初め頃の宗教者）によって開かれたとされ、神道と陰　陽　道の要素を取り入れた仏教的な宗教として発展しました。

霊山で修行を積む修験者は、山伏とも呼ばれました。修験者は修行によって身につけた験力によって災いを除き、人々の暮しを守る宗教者として活動しました。

江戸時代には多くの修験者が里修験者として村々に定着し、神社や仏堂の別当（管理者）となり、また道場を営んで祈祷を行い、お札を配るなどして村人の生活に深く関わっていきました。

伊澤家は、久那斗神社の別当を務めた多聞院という修験者です。その住宅は江戸時代のこの地方の一般的な民家ですが、内部に修験の道場が造られています。

奥の座敷には社寺建築特有の虹梁、大瓶束などが架けられ、円柱を用いるなど、建築史や文化史上で貴重な価値があります。

1990（平成２）年９月、国の重要文化財に指定されました。



指定内容

多聞院伊澤家住宅　１棟
造　り　桁行　十間半（20.4m）
梁間　六間弱（11.2m）
寄せ棟造り
茅葺き（破風付き）
軒　「せがい造り」
（梁を出して軒屋根を支える、豪雪地域にみられる構造）

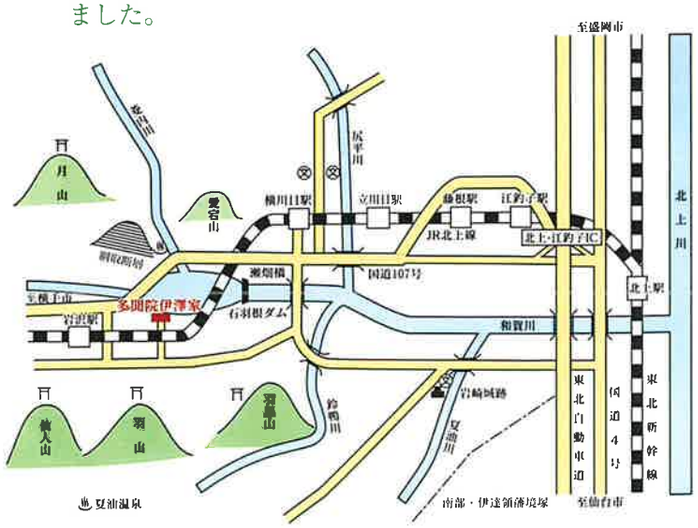
附　久那斗神社里宮（仙人権現）　１棟
造　り　桁行　三間
梁間　二間（１重）
入母屋造り　向拝一間　鉄板葺
棟　札　３枚〔1787（天明７）年 ほか２枚〕

家相図　２枚〔1861（文久元）年 ほか１枚〕

見学のために

◎見学は無料です。公開日時は次のとおりです。
４月から11月までの毎週金、土、日曜日及び祝日。午前９時から午後４時30分まで。
◎火災防止のため、敷地内は禁煙です。

＊ 夏季には庭先の池で、2002（平成14）年に中尊寺（平泉町）から株分けされた「中尊寺ハス」の花を見ることができます。中尊寺ハスの種は中尊寺の金色堂に納められていた藤原泰衡の首桶から見つかったもので、800 余年後の 1995（平成７）年に発芽に成功しました。



国指定重要文化財

多聞院伊澤家と久那斗神社



仙人権現像絵札（江戸時代）

〈問い合わせ先〉
北上市教育委員会文化財課
〒024-0043 北上市立花14地割62番地2
北上市立埋蔵文化財センター内
電　話　0197-65-0098
ＦＡＸ　0197-64-1759

久那斗神社里宮



伊澤家住宅の裏に位置しています。仙人山にまつられる仙人権現の里宮です。木鼻や火頭窓があり、1787（天明７）年に建てられました。十一面観音像、役行者像、不動明王像がまつられています。

修験の道場



奥の座敷には、社寺建築に特有の虹梁、大瓶束が架けられ、円柱となっています。前後２ヶ所の虹梁の上部は、牡丹唐草や波に竜を表した漆喰彫刻の欄間となっています。

伊澤家住宅の外観



（1990（平成２）年撮影）

江戸時代のこの地方の民家の形（屋内で馬を飼う造りで、直ご家）でありながら、奥の座敷を修験の道場としています。

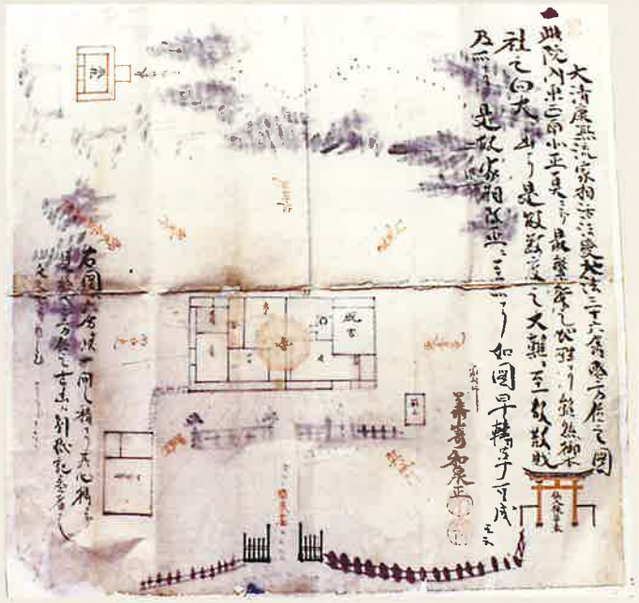
伊澤家に伝わる伝承

室町時代から和賀地方を治めていた和賀氏は、豊臣政権によって領地を没収されると、1600（慶長５）年当主忠親のもと再興を期して岩崎城に立てこもります。しかし翌年に南部勢の攻撃を受け敗北し、忠親は重臣らと共に伊達領に逃れます。その後、徳川政権によって切腹を命ぜられ、忠親は仙台の国分尼寺において従者８名と共に自刃しました。

この時忠親は、和賀仙人から同行した修験者の自楽院に遺言書を代筆させ、国元へ持参させたといいます。

（忠親の法名「自楽院殿霊源性徹大居士」にある「自楽院」の由来にまつわる伝承です。）

伊澤家の家相図



主屋の建てられた年代は、1861（文久元）年の家相図と、建物の構造・形式などから、18世紀末から19世紀初頃とみられます。

伊澤家の現在の間取図

